

図書館だより

埼玉県立図書館

第 49 号

平成 3 年 10 月 15 日

編集 埼玉県立図書館

広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館

館長 新井 一久

浦和市高砂 3-1-22

電話 048 (829) 2821

《埼玉の古戦場》

(主な内容)

- 古戦場(柳田敏司).....(1)
- 本のひろば.....(5~6)
- 埼玉の古戦場(大島英夫).....(2~3)
- 10月~12月の主な催し物.....(7)
- 埼玉東武地域の古戦場.....(4)
- 県内中世のおもな合戦場.....(8)



県立博物館所蔵「太平記絵巻」より

古戦場

柳田敏司

NHK大河ドラマ「太平記」は鎌倉時代末、南北朝の内乱を中心にしたドラマである。華麗な鎧を着た武者たちの勇壮な合戦場面が多い。

日本で戦いということが始まったのは弥生時代といわれる。土地の獲得が目的である。以来現代に至るまで領土の拡張、主権の確立など権力者によって引き起こされた戦争、合戦、戦闘と呼ばれる争いは、国内外を問わず繰り返されてきた。

埼玉の地は古代から比較的平穏であったが、鎌倉が政治の中心になってから以後しばしば戦場となった。それは鎌倉に通ずる街道が縦走し、広大な平原があったからである。徳川家康が江戸に幕府を開くまで激戦が各地でくりひろげられた。

昔、合戦のあった場所を古戦場というならば、県内には数十か所の古戦場がある。県北、県西部に多く分布しているのは、要衝の地が多かったであろう。今古戦場を訪れると住宅地と化したところ、昔の面影を残す地相とさまざまである。

(埼玉県文化財保護協会々長)

201234567891301234

埼玉東武地域の古戦場

古戦場

埼玉東武地域は、岩槻台地や徴高台地を取りまくように綾瀬川(古荒川)、荒川(現在の元荒川)、利根川(現在の古利根川)が流れ、この河川によって自然堤防や後背低湿地が形成されている。また、河川によって粘土と砂の互層からなる沖積層が広がっている。荒川、古隅田川、利根川にはさまれた地域は、新方郷と称され、平安時代末から鎌倉時代初頭にかけて鳥羽天皇第三皇女八条院の所領であった。ここは、平安時代末以来の下総国西部の豪族下河辺氏が莊司を務め、治承四年(一一八〇)頼朝が武総地域を掌握したとき、下河辺行平が勲功の賞として莊司職を安堵された。その後、北条氏の一族金沢氏へ領有権は移った。

室町時代になると関東は、禪秀の乱、永享の乱、結城合戦と戦さがつづき、長い動乱の時代へと入っていった。この頃の様子を知ることができると、この史料によると、結城合戦で、結城方として戦い、討死

にした下野国野木の領主野木大炊秀俊の妻は、一子松寿丸を抱き乳母を伴って野木の屋形を逃れ、兄の大川戸左衛門太郎のもとに身を寄せた。足利義教の残党狩りは厳しく、大軍が大川戸に襲来するとうい風説にも左衛門太郎は恐れず、一族の私市、清久、高柳の人々も本家救援のためにつけつづけることになった。このことを聞いた秀俊の妻は、大川戸一族に難が及ぶのを恐れ、嘉吉元年(一四四一)正月二十一日の夜半、松寿丸と共に兄左衛門太郎の館を抜け出し湖に身を投じて自殺し、乳母もあつとを迫った。三人の霊は、三頭一尾の毒蛇となって湖辺を漂ったので、湖を訪れる人もいなくなったという。また、この付近の攻防戦の様子は次のように記されている。



向畑城跡

文亀四年(一五〇四)正月に八条兵衛尉平惟茂は、兵を率いて新方の地へ攻め入って来たので新方頼希は、向畑(ムコウバタ)の城に出馬し小林郷で対峙した。正月晦日に新方頼希は、決戦を求めて八条軍を追崩し、勝に乗って深入りし、八条勢に討ち取られた。新方勢は、主君を討ち、新方氏の本領は奪取されてしまった。八条氏は、向畑城に類葉の別府三郎左衛門を置いて守らせた。栄広山清

浄院の住職高賢上人は、新方頼希の兄であったため、寺を焼かれ、角田(ヌミタ)、荒川を渡り、渋江の欣登上人(岩槻子本町五丁目浄安寺住僧)のもとに身を置いた。

永正十七年(一五二〇)十月高賢上人は、石川兵部左衛門、川田雅楽之助などとともに兵を率いて向畑の城に、別府三郎左衛門を攻めた。八条方の赤根四郎左衛門は、手の者三十騎を率いて利根川を渡り、救援に駆け付けた。新方勢は、苦戦したが別府・赤根を討ち取り、向畑の城を焼き払った。

永正十八年正月六日八条兵衛尉は先陣に青柳外記左衛門・小作田隼人・柿木小膳など八百五十余人、二陣に大相模飛騨守・西脇左近右衛門・領家八郎・国分寺藤九郎など五百余人、本隊八条兵衛尉は千余人にて後陣を成して、千間堀を渡り、新方荘に討ち入るべく千両堀際に陣を張った。

岩槻市役所

飯山 実

一方の高賢上人は、一山の衆徒や新方の譜代家臣並びに渋江の加勢を合わせて千三百五十余人を従えて大吉に出陣した。新方勢は、同夜八条方の別府氏の陣へ夜討をし放火したため、八条方は大混乱となった。このとき瓦曾根に布陣していた八条兵衛尉の伯父大曾根上野介は、急拠別府に馳せつけ新方勢の後方より攻めたので今度は新方勢が危地に陥った。すると新方勢の後詰であった安国・浄恩の兵が大曾根上野介の背後を攻めたので大乱戦となった。八条兵衛尉は、小作田隼人の身替り討死を免がれたが総崩れとなり退いた。六日夜から七日朝にかけての合戦で、八条勢は八百五十余人、新方勢は三百二十四人が討死したという。

このような合戦は、利根川(古利根川)をはさんだいたる所で行なわれた。草加市柿木から越谷市見田方付近も、この頃の古戦場跡であり、かつては、田のいたるところに塚があり、伝承を伝えていた。向畑城は、今は人家が建ち往時の面影はない。このような古戦場は、東武地域の低地帯全域といっても過言ではない。



埼玉の古戦場とその周辺

埼玉県の古戦場名をいくつ御存知ですか?。今回は、古戦場とその時代に関する資料を掲げました。専門的なものから、気軽な読みものまで、さまざまな文献が読む人を戦国の者に誘ってくれます。

〔辞書・事典類〕

埼玉大百科事典 埼玉新聞社 74

第一巻で「かつせん 合戦」の項目を見ると、66の合戦が年代順に表にされています。

郷土資料辞典 埼玉新聞社 65

郷土史事典―埼玉県 大村進・秋葉一男共著 昌平社 79

郷土資料事典―埼玉県 観光と旅人文社 85

県内の各市町村を、ガイドブック風に紹介してあります。

戦国合戦大事典 第二巻 栃木県

群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県 戦国合戦史研究会編著 新人物往来社 89

戦国時代の合戦を都道府県別に編集し、解説してあります。

戦国史事典 桑田忠親監修 秋田書店 80

埼玉郷土辞典 埼玉新聞社 65

日本史学習のための新版 埼玉県資料集 埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会編 聚海書林 85

〔資料集〕

埼玉の歴史ものがたり 埼玉県社会科教育研究会編著 日本標準 81

新編埼玉県史 資料編5 9 中世1 5 埼玉県編

関東戦国史の研究 後北条氏研究会編 名著出版 76

関八州古戦録 駒谷発人著 関東史研究会 73

関八州古戦録 植原昭武著 中丸和

伯校注 新人物往来社 67

改訂関八州古戦録 植原昭武著 中丸和伯校注 新人物往来社 76

関八州古戦録上・下 植原昭武原著 稲川遠志訳 教育社 86

前出の現代語訳版です。新書サイズ。

郷土の文化財 埼玉県 柳田敏司編著 国土地理協会 82

埼玉歴史点描 柳田敏司著 古瀬政一発行 73

昭和39年9月から47年12月までに「広報さいたま」に掲載されたシリーズをまとめたものです。

比企丘陵―風土と文化 「比企丘陵―風土と文化」刊行会編 邑心文庫 89

歴史と風土―武蔵野 桜井正信著 社会思想社 67

鎌倉街道―歴史編 栗原伸通著 有峰書店 76

武蔵野むかしむかし 朝日新聞社編 新人物往来社 71

武蔵野むかしむかし 朝日新聞社編 河出書房新社 85

「朝日新聞」東京版に、昭和38年6月1日から12月31日まで、「三多摩むかしむかし」として、連載されたものです。

埼玉県の戦場には、武蔵武士が欠かせません。そこで武蔵武士に関する資料も、集めてみました。

〔武蔵武士について〕

風駆ける武蔵野―もうひとつの埼玉二千年史 大護八郎 歴史図書 84

軍記武蔵七党上・下巻 川又辰次編 川又タケヨ 85

武蔵の武士団―その成立と故地をさぐる 安田元久著 有隣堂 84

武蔵武士 渡辺世祐 八代国治共著 有峰書店 71

武蔵武士 渡辺世祐 八代国治共著 有峰書店新社 87

武蔵武士の成立と展開 松本雪雄著 岡部町郷土文化会 86

武蔵武士の研究 福島正義著 福島正義先生還暦記念事業発起人一同

正義先生還暦記念事業発起人一同

正義先生還暦記念事業発起人一同

85 (浦・熊・川・久)
 武州物語 読売新聞社浦和支局編
 読売新聞浦和支局 65
 昭和41年4月から10月まで「読売新聞」埼玉県民版に連載したものをまとめたもの。武蔵武士の発生から明治までの時代について、書かれています。

〔逐次刊行物〕
 武蔵野 第五十九巻第二号(通巻三〇〇号) 武蔵野文化協会 81 (浦・川)

第三〇〇号記念の特集号で、武蔵野のつわもの歴史とその風土に関連記事が多く見られ、合戦とその史跡に関する記述もあります。

合戦には「城」にまつわるものが多いようです。「城」についての文献からも、そのことがうかがえます。

〔「城」について〕
 関東百城―ふるさととの城址をたずねて 大多和晃紀著 有峰書店 77 (熊・川)
 写真紀行日本の城―東海道・北陸道 集英社 88 (川)
 城郭と城下町 2 関東 小学館

84 (川)
 日本城郭史研究叢書 第3巻武蔵野の城館址 小室栄一編 名著出版 84 (浦・熊・川・久)
 日本城郭全集 4 東京・神奈川・埼玉編 人物往来社 67 (浦・熊・川)
 日本城郭大系 第5巻埼玉・東京 79 (浦・川)

〔埼玉県内の「城」について〕
 埼玉県北部の城 柳進著 刊 69 (浦・熊)

埼玉の館城跡 埼玉県教育委員会 68 (浦・熊)
 埼玉県館城跡 埼玉県教育委員会編 国書刊行会 87 (川・久)
 埼玉の古城址 中田正光著 有峰書店新社 83 (浦・川・久)

富田勝治論文集―羽生及び付近の諸城 富田勝治著 刊 89 (浦・熊・久)

鉢形落城衰史 四方田義男著 埼玉民論社 57 (浦)
 武州松山城攻之書 武蔵鉢形城 中里清著 高橋幸太郎刊 52 (浦)
 〔逐次刊行物から「埼玉の城」〕
 中世城館跡調査概報1〜4 埼玉県

立歴史資料館編 埼玉県教育委員会 84、87 (浦・熊・川・久)
 中世の城館跡 資料館ガイドブック 4、7 埼玉県立歴史資料館 87、90
 4、埼玉県入間・比企地方
 5、埼玉県秩父・児玉地方
 6、埼玉県大里・北埼玉地方
 7、埼玉県北足立・南埼玉・北葛飾地方 (浦・熊・川・久)



最後に武蔵武士の館についての研究を紹介します。

〔武蔵武士の館〕
 中世武蔵武士館跡の研究1〜8 埼玉県立浦和第一女子高等学校郷土研究部 81、87
 1、児玉党四方田氏館について
 2、児玉党阿佐美氏館について
 3、猪俣党猪俣氏について
 4、村山党金子氏・宮寺氏・丹党加治氏館について

5、丹党中山氏・丹党青木氏・村山党金子氏館について
 6、吉田町秩父氏館・龍ヶ谷城
 7、北条氏那武州針形城址
 8、花園城と少林寺について
 ※(一)内の略語は、各館の所蔵を表わします。
 浦：埼玉県立浦和図書館
 熊：埼玉県立熊谷図書館
 川：埼玉県立川越図書館
 久：埼玉県立久喜図書館

連絡してください

◆ 県立図書館では、県民のみなさんの出版物(自分史・体験記・俳句・短歌集など)を網羅的に収集・保存し、利用していただいています。
 ◆ あなたが発行した際は、お近くの県立図書館にお知らせください。
 ◆ 連絡先
 県立浦和図書館(048-661-163)
 県立熊谷図書館(048-513-163)
 県立川越図書館(048-514-163)
 県立久喜図書館(048-313-163)



10月〜12月の主な催し物

● 県立浦和図書館
 本を読む県民のつどい

11月14日(休) 13時〜16時(12時受付)
 埼玉会館小ホール(浦和市)
 定員480人(10月27日 締切)
 内容
 ○ 読書グループ及び地域家庭文庫表彰
 ○ 読書活動事例発表
 ○ 記念講演
 講師 作家 澤地久枝氏

資料展「図書館資料でみる埼玉の近・現代」1階ホール
 11月12日(火)〜17日(日) 9時〜17時
 (浦和図書館の所蔵する、埼玉の近代史関係の図書約200点と写真約30枚を展示紹介。詳細な年表と併せて明治以降今日までの埼玉の歩みを振り返る)
 映画会
 11月15日(金) 14時
 「さいたま百年」「ふるさと埼玉」

11月29日(金) 14時
 「秩父の夜祭り」「鉄砲まつり」
 12月25日(水)・26日(木) 10時・14時
 「ふらいばんじいさん」ほか
 ● 県立熊谷図書館
 文芸講演会
 11月30日(出) 13時30分
 本庄市中央公民館
 講師 重兼芳子氏「いのちのおくりもの」
 入場無料 先着300名 手話通訳付
 郷土を知る文化資料展
 11月12日(火)〜17日(日) 9時〜17時
 内容 埼玉の養蚕―まゆの囲さいたま

映画会
 11月2日(出) 10時・14時
 「米(こめ)」
 12月7日(出) 10時・14時
 「紅いコーリヤン」
 11月14日(休) 10時・14時
 「長靴をはいた猫」ほか
 12月25日(水) 10時・14時
 「一本の花」「赤毛のアン」ほか
 11月15日(金) 14時
 金曜映画会

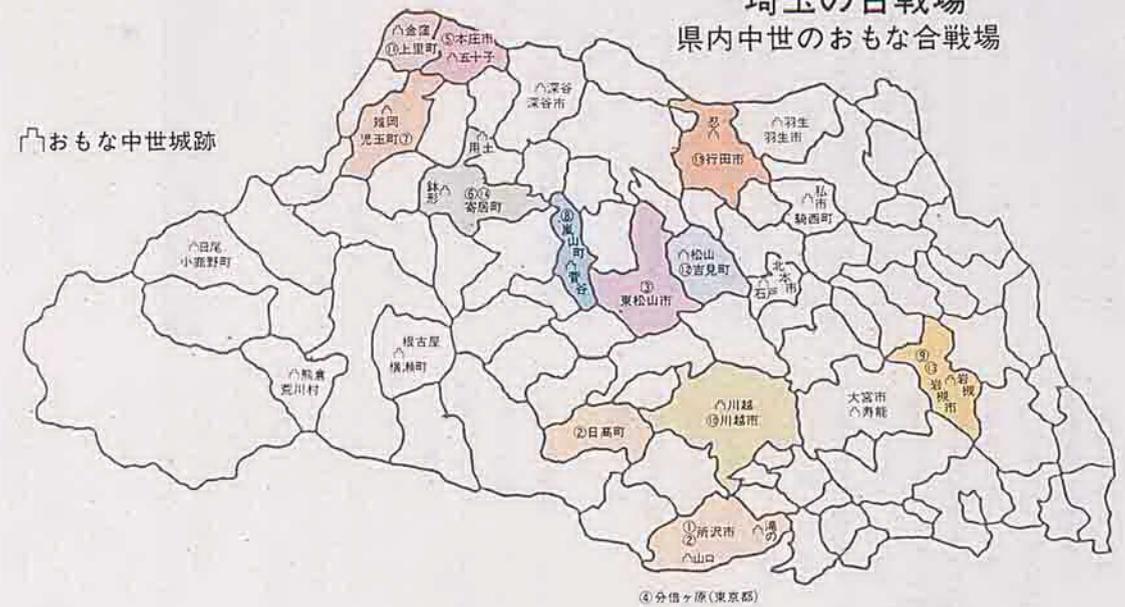
11月29日(金) 14時
 「秩父の夜祭り」
 12月20日(金) 14時
 「高戈里峯―北稜初登頂」ほか
 ● 県立川越図書館
 移動図書館利用者のつどい
 11月30日(出) 13時〜16時
 川島町コミュニティセンター2階大会議室 先着130名(入場無料)
 講演「子どもと遊びの秘密」加子里子氏(児童文化研究家)／事例発表ほか
 郷土を知る資料展
 11月12日(火)〜17日(日) 9時〜17時
 内容「埼玉の民俗―くらしと装い」
 映画会
 10月25日(金) 10時・14時
 「秋の夜語り」
 「語りの伝承は今」
 11月14日(休) 10時・14時
 県民の日映画会、フィルムで見る埼玉の民俗
 「民具をたずねて」「さいたまの年中行事」「武州藍」ほか
 映画と音楽のつどい、ルネ・クレマンの世界
 11月9日(土) 9時30分・13時30分
 CDコンサート

「さきわか物語―古代東国」ほか
 12月13日(金) 14時
 「秩父の夜祭り」「巡礼」
 12月20日(金) 14時
 「高戈里峯―北稜初登頂」ほか

11月16日(出) 9時30分・13時30分
 CDコンサート
 映画「太陽がいっぱい」
 ● 県立久喜図書館
 著者とのつどい 1階視聴覚室
 10月27日(日) 13時30分〜15時30分
 講師 野田知佑氏(エッセイスト)
 演題 カヌーひとり旅 定員40人
 11月6日(水) 13時30分
 講演「シャトルック・ホームズ物語の楽しみ方」小林司氏 定員40人
 ※申し込みは、直接あるいは電話又ははがきで県立久喜図書館(048-313-163)へ(入場無料)。
 郷土資料展 1階集会室
 11月12日(火)〜17日(日) 9時〜17時
 テーマ「さいたまの味」
 映画会 1階視聴覚室
 10月19日(出) 10時・14時
 「花いちもんめ」
 10月25日(金) 14時
 「現代の人間像」「こころ拓く」
 11月8日(金) 14時
 「伸びよ子どもたち」「この愛をありがと」「地域とともに」
 11月14日(休) 10時・14時
 「ふるさと」
 11月22日(金) 14時
 「埼玉の年中行事」「秩父夜祭り」

11月16日(出) 9時30分・13時30分
 CDコンサート
 映画「太陽がいっぱい」
 ● 県立久喜図書館
 著者とのつどい 1階視聴覚室
 10月27日(日) 13時30分〜15時30分
 講師 野田知佑氏(エッセイスト)
 演題 カヌーひとり旅 定員40人
 11月6日(水) 13時30分
 講演「シャトルック・ホームズ物語の楽しみ方」小林司氏 定員40人
 ※申し込みは、直接あるいは電話又ははがきで県立久喜図書館(048-313-163)へ(入場無料)。
 郷土資料展 1階集会室
 11月12日(火)〜17日(日) 9時〜17時
 テーマ「さいたまの味」
 映画会 1階視聴覚室
 10月19日(出) 10時・14時
 「花いちもんめ」
 10月25日(金) 14時
 「現代の人間像」「こころ拓く」
 11月8日(金) 14時
 「伸びよ子どもたち」「この愛をありがと」「地域とともに」
 11月14日(休) 10時・14時
 「ふるさと」
 11月22日(金) 14時
 「埼玉の年中行事」「秩父夜祭り」

「埼玉の古戦場」
県内中世のおもな合戦場



「埼玉の古戦場」のタイトルで進められた編集会議、しかし、執筆依頼に至るまでが難産であった。そんな折に、県立

文書館古文書課の方から親身になったアドバイザーをいただき、三氏にお願いして今号ができあがりました。お忙しいところ、ご執筆いただいた、柳田、大島、飯山の三氏にお礼申し上げます。

合戦名	年月日		主要事項
	年代	西暦年月日	
① 小手指原合戦	元弘3	1333. 5. 14	新田義貞、鎌倉攻めのため南進して入間川、入間郡小手指原(所沢市)に至り鎌倉勢と合戦。翌5月15日分倍ヶ原(東京都下)で幕府軍と激戦。
② 女影原合戦	建武2	1335. 7. 22	北条高時の二男、時行、信濃に挙兵し、武蔵に進み、入間郡女影原(日高町)小手指原(所沢市)で足利直義と戦い、直義敗れる。——中先代の乱——
③ 岩殿山合戦	正平18	1363. 8. 20	関東管領足利基氏は宇都宮氏綱・芳賀高名らが上杉憲顕を討とうとするを聞き鎌倉を発し、岩殿山(東松山市)で氏綱等と戦う。——永享の乱——
④ 入間川合戦	永享10	1438. 10. 28	足利持氏と上杉憲実との抗争、持氏が敗れ捕縛。
⑤ 五十子合戦	長禄元	1457. 12	上杉房顕、五十子(いかつこ・本庄市)に陣し、成氏勢と戦う。
⑥ 用土原合戦	文明9	1477. 5. 14	太田道灌、上杉顕定・上杉定正の両将を五十子に迎えて、これに向い来たる敵将長尾景春を用土原(寄居町)に破る。景春は退いて鉢形城に入る。
⑦ 児玉合戦	文明12	1480. 1. 6	長尾景春、秩父日野尾城より児玉に出兵、太田道灌と扇谷上杉定正はこれを討つ。景春秩父に退く。
⑧ 菅谷原合戦	長享2	1488. 6. 18	上杉顕定と上杉定正の両軍、比企郡菅谷原(嵐山町)に戦う。
⑨ 岩槻合戦	大永5	1525. 2. 6	北条氏綱、岩槻城の太田資頼を攻める。太田の臣・波井三郎は氏綱に内応して城を落とす。資頼は北足立郡石戸城(北本市)にたてこもる。
⑩ 川越夜戦	天文15	1546. 4. 20	上杉憲政・上杉朝定・足利晴氏等、川越城を包囲す。北条氏康は小田原より援軍を送り上杉朝定を攻めてこれを降し、ついで松山城を陥す。これを川越夜戦という。この結果北条氏の勢力は増大し、天神山城主藤田氏・忍城主成田氏・蘆原城主小幡氏など北条氏に従う。
⑪ 神流川合戦	天正10	1582. 6. 19	上野野橋の滝川一益が、本能寺の変のため帰国するのを狙って北条氏邦は、児玉郡神流川(上里町)に戦う。
⑫ 豊臣秀吉の関東攻撃、松山落城	天正18	1590. 4. 12	豊臣方の前田利家・上杉景勝の軍、難波田因幡守景輝の守る松山城を攻め、同年4月16日城を落す。
⑬ 岩槻落城	天正18	1590. 5. 22	豊臣方の浅野長吉・本村秀直の軍は伊達与兵衛房実の守る岩槻城を攻撃し、火攻めにして5月22日落城させる。
⑭ 鉢形落城	天正18	1590. 6. 14	豊臣方の前田利家・上杉景勝の軍は、鉢形城を包囲し、城兵の奮戦もむなしく、6月14日城は開城となる。つづいて秩父地方の支城も次々と開城す。
⑮ 忍城の水攻め	天正18	1590. 6. 4 6. 27	豊臣方の石田三成の軍、6月4日忍城(行田市)を包囲し、同7日この城の水攻めを計画して、下忍(行田市)を中心として堤を築きはじめた。いわゆる石田堤である。忍城は平城で、沼が多く攻めるのに不便なので、堤を築いて利根川、荒川の水を引用しようとしたわけである。6月27日落城した。

埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会編「新版・埼玉県資料集」より